

A.2 追加性に関する情報（空調）

投資回収年

投資回収年数	6.9
--------	-----

年

A.3 排出削減量の算定方法（空調）

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量	tCO ₂ /年	52
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO ₂ /年	171.3
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO ₂ /年	118.7

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 ベースライン空調設備の冷媒はR22、プロジェクト空調設備の冷媒はR410Aである。したがって、方法論（EN-S-004）の規定に基づき、空調設備の冷媒の漏洩によるベースライン排出量は算定対象としない。

排出活動	排出量(tCO ₂ /年)	モニタリング・算定方法
空調設備の冷媒の漏洩によるベースライン排出量	0.0	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上とはならない（影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない）。

(考え方) ※1 ベースライン及びプロジェクト実施後の空調設備ではともに代替フロンを使用するため、空調設備の冷媒の漏洩によるプロジェクト排出量は算定対象としない。また、更新前の空調設備はフロン回収破壊法に基づき適正に廃棄処理されるため、プロジェクト排出量として算定対象としない。

排出活動	排出量(tCO ₂ /年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
空調設備の冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後排出量、及び冷媒を使用する更新前の空調設備の破棄による排出量	0.0	0.0	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。 <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。 <input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 空調設備を電力で稼動した場合のCO₂排出量を算定する

$$EM_{PJ} = EM_{PJ,M} + EM_{PJ,S} \quad (\text{式2})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量	tCO ₂ /年	118.7
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO ₂ /年	118.7
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な主要排出量	tCO ₂ /年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

$$EM_{PJ,M} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式3})$$

$$EL_{PJ,M} = (EL_{PJ,S} + EL_{PJ,W}) \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式4})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO ₂ /年	118.7
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備の電力使用量	kWh/年	208,167
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (0 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	0.000570
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (1 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	0.000570
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	0.000570
$EL_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の空調設備の冷房による総電力使用量	kwh/年	84,746
$EL_{PJ,W}$	プロジェクト実施後の空調設備の暖房による総電力使用量	kwh/年	123,421

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

ベースライン排出量は、プロジェクト実施後の空調設備による生成熱を、プロジェクト実施後の空調設備からではなく、ベースラインの空調設備から得る場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$Q_{BL,heat}=Q_{PJ,heat}=EL_{PJ} \times \varepsilon_{PJ} / 100 \times 3.6 \times 10^{-3} \quad (\text{式5})$$

$$Q_{BL,heat}=Q_{BL,heat,S}+Q_{BL,heat,W} \quad (\text{式6})$$

$$Q_{BL,heat,S}=EL_{PJ,S} \times \varepsilon_{PJ,S} / 100 \times 3.6 \times 10^{-3} \quad (\text{式7})$$

$$Q_{BL,heat,W}=EL_{PJ,W} \times \varepsilon_{PJ,W} / 100 \times 3.6 \times 10^{-3} \quad (\text{式8})$$

記号	定義	単位	想定値
$Q_{BL,heat}$	ベースラインの空調設備による生成熱量	GJ/年	3,222
$Q_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後の空調設備による生成熱量	GJ/年	3,222
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備の電力使用量	kWh/年	208,167
ε_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備のエネルギー消費効率	%	-
$Q_{BL,heat,S}$	ベースラインの空調設備による冷房時の生成熱量	GJ/年	1,312
$Q_{BL,heat,W}$	ベースラインの空調設備による暖房時の生成熱量	GJ/年	1,911
$EL_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の空調設備の冷房による総電力使用量	kwh/年	84,746.1
$\varepsilon_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の空調設備の冷房時のエネルギー効率	%	430
$EL_{PJ,W}$	プロジェクト実施後の空調設備の暖房による総電力使用量	kwh/年	123,421.2
$\varepsilon_{PJ,W}$	プロジェクト実施後の空調設備の暖房時のエネルギー効率	%	430

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = EM_{BL,M} + EM_{BL,S} \quad (\text{式10})$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの排出量	tCO ₂ /年	171.3
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO ₂ /年	171
$EM_{BL,S}$	ベースラインの付随的な排出量	tCO ₂ /年	0.0

$$EM_{BL,M} = Q_{BL,heat,f} \times 100 / \varepsilon_{BL,f} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式14})$$

$$EM_{BL,M} = (Q_{BL,heat,s} \times 100 / \varepsilon_{BL,s} + Q_{BL,heat,W} \times 100 / \varepsilon_{BL,W}) \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式15})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの空調設備の主要排出量	tCO ₂ /年	171
$Q_{BL,heat,f}$	ベースラインの空調設備による生成熱量	GJ/年	-
$\varepsilon_{BL,f}$	ベースラインの空調設備によるエネルギー消費効率	%	-
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの空調設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /GJ	0.059
$Q_{BL,heat,s}$	ベースラインの空調設備による冷房時の生成熱量	GJ/年	1,312
$\varepsilon_{BL,s}$	ベースラインの空調設備による冷房時のエネルギー効率	%	100
$Q_{BL,heat,W}$	ベースラインの空調設備による暖房時の生成熱量	GJ/年	1,910.6
$\varepsilon_{BL,W}$	ベースラインの空調設備による暖房時のエネルギー効率	%	120

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（空調）

（1）活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
$EL_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の空調設備の冷房による総電力使用量	kwh/年	C	電力計による計測	対象期間で累積	84,746	概算値計算書を参照	冷房期間は5月から10月とした。補正(-3%)を考慮済
$EL_{PJ,W}$	プロジェクト実施後の空調設備の暖房による総電力使用量	kwh/年	C	電力計による計測	対象期間で累積	123,421	概算値計算書を参照	暖房期間は11月から4月とした。補正(-3%)を考慮済

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。

分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。

分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

（2）係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※ 1	概要	頻度	想定値	根拠	
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数（0 ≤ t < 1年）	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	移行限界電源方式
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数（1 ≤ t < 2.5年）	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	移行限界電源方式
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数（2.5年 ≤ t）	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	移行限界電源方式

$\epsilon_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の空調設備の冷房時のエネルギー効率	%	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ値から算出	プロジェクト開始時	430	空調設備のエネルギー計算書参照	
$\epsilon_{PJ,W}$	プロジェクト実施後の空調設備の暖房時のエネルギー効率	%	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ値から算出	プロジェクト開始時	430	空調設備のエネルギー計算書参照	
$\epsilon_{BL,S}$	ベースラインの空調設備による冷房時のエネルギー効率	%	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ値から算出	プロジェクト開始時	100	空調設備のエネルギー計算書参照	
$\epsilon_{BL,W}$	ベースラインの空調設備による暖房時のエネルギー効率	%	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ値から算出	プロジェクト開始時	120	空調設備のエネルギー計算書参照	
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの空調設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO ₂ /GJ	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.059	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	燃料種 LPG

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A. 4. 4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A. 4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明（空調）

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類B (計量器)を使用する場合の計量器について説明すること。

(1) 計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

(2) モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	空調機の電気使用量	空調
<p>(推定・概算方法)</p> <p>$EL_{PJ,S}$ プロジェクト実施後の空調設備の冷房による総電力使用量</p> <p>$EL_{PJ,W}$ プロジェクト実施後の空調設備の暖房による総電力使用量</p> <p>市販の積算電力計Panasonic製 多回路エネルギーモニタBT3720K、BT3722を使用してモニタリング実施。概算値は別紙参照。</p> <p>(モニタリングポイント)</p> <p>$EL_{PJ,S}$ プロジェクト実施後の空調設備の冷房による総電力使用量</p> <p>$EL_{PJ,W}$ プロジェクト実施後の空調設備の暖房による総電力使用量</p> <p>空調機用分電盤に積算電力計を設置して測定。エネルギーモニターに関しては、メーカーカタログ値では積算電力量精度±2.0%(定格の5～100%範囲)CT誤差±1.0%である。保守的に3.0%差し引いた値を電力使用量として採用する。</p>		

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目		

A.2 追加性に関する情報（照明）

投資回収年

投資回収年数	12.6
--------	------

年

A.3 排出削減量の算定方法（照明）

A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
ER	排出削減量	tCO2/年	14
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	26.4
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	12.2

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

(1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

(2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上とはならない（影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない）。

(考え方) ※1

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量进行评估する。
			<input checked="" type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 プロジェクト実施後の電力使用量を方法論EN-S-006 Ver1.1に当てはめて算出する。

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (式2)$$

$$EL_{PJ} = EL_{PJ,1} + EL_{PJ,2} + EL_{PJ,3} \quad (式3)$$

$$EL_{PJ1} = R_{PJ1} \times T_{PJ1} \quad (式4)$$

$$EL_{PJ2} = R_{PJ2} \times T_{PJ2} \quad (式5)$$

$$EL_{PJ3} = R_{PJ3} \times T_{PJ3} \quad (式6)$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{PJ}	プロジェクト実施後の排出量	tCO2/年	12.2
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の照明設備における電力使用量	kWh/年	21,359
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (0 ≤ t < 1年)	tCO2/kWh	0.000570
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (1 ≤ t < 2.5年)	tCO2/kWh	0.000570
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO2/kWh	0.000570
EL_{PJ1}	プロジェクト実施後の厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の電力使用量	kWh/年	19,456
R_{PJ1}	プロジェクト実施後の厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の消費電力	kW	5.9
T_{PJ1}	プロジェクト実施後の厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の稼働時間	h/年	3,285
EL_{PJ2}	プロジェクト実施後の日常動作訓練室の照明設備の電力使用量	kWh/年	397
R_{PJ2}	プロジェクト実施後の日常動作訓練室の照明設備の消費電力	kW	0.5
T_{PJ2}	プロジェクト実施後の日常動作訓練室の照明設備の稼働時間	h/年	730
EL_{PJ3}	プロジェクト実施後のテラス食堂の照明設備の電力使用量	kWh/年	1,506
R_{PJ3}	プロジェクト実施後のテラス食堂の照明設備の消費電力	kW	0.6
T_{PJ3}	プロジェクト実施後のテラス食堂の照明設備の稼働時間	h/年	2,555

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

ベースラインの排出量は、プロジェクト実施後の稼働時間で、プロジェクト実施後の照明設備ではなく、ベースラインの照明設備を稼働する場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL1} = T_{PJ1} \quad (\text{式7})$$

$$T_{BL2} = T_{PJ2} \quad (\text{式8})$$

$$T_{BL3} = T_{PJ3} \quad (\text{式9})$$

記号	定義	単位	想定値
T_{BL1}	ベースラインの厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の稼働時間	h/年	3,285
T_{PJ1}	プロジェクト実施後の厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の稼働時間	h/年	3,285
T_{BL2}	ベースラインの日常動作訓練室の照明設備の稼働時間	h/年	730
T_{PJ2}	プロジェクト実施後の日常動作訓練室の照明設備の稼働時間	h/年	730
T_{BL3}	ベースラインのテラス食堂の照明設備の稼働時間	h/年	2,555
T_{PJ3}	プロジェクト実施後のテラス食堂の照明設備の稼働時間	h/年	2,555

A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = R_{BL} \times T_{BL} \times CEF_{electricity,t} \quad (式10)$$

$$EM_{BL} = (EL_{BL1} + EL_{BL2} + EL_{BL3}) \times CEF_{electricity,t} \quad (式11)$$

$$EL_{BL1} = R_{BL1} \times T_{BL1} \quad (式12)$$

$$EL_{BL2} = R_{BL2} \times T_{BL2} \quad (式13)$$

$$EL_{BL3} = R_{BL3} \times T_{BL3} \quad (式14)$$

記号	定義	単位	想定値
EM_{BL}	ベースラインの排出量	tCO2/年	26.4
R_{BL}	ベースラインの照明設備の消費電力	kW	—
T_{BL}	ベースラインの照明設備の稼働時間	h/年	—
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (0 ≤ t < 1年)	tCO2/kWh	0.000570
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (1 ≤ t < 2.5年)	tCO2/kWh	0.000570
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO2/kWh	0.000570
EL_{BL1}	ベースラインの厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の電力使用量	kWh/年	41,562
R_{BL1}	ベースラインの厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の消費電力	kW	12.7
T_{BL1}	ベースラインの厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の稼働時間	h/年	3,285
EL_{BL2}	ベースラインの日常動作訓練室の照明設備の電力使用量	kWh/年	828
R_{BL2}	ベースラインの日常動作訓練室の照明設備の消費電力	kW	1.1
T_{BL3}	ベースラインの日常動作訓練室の照明設備の稼働時間	h/年	730
EL_{BL3}	ベースラインのテラス食堂の照明設備の電力使用量	kWh/年	4,006
R_{BL3}	ベースラインのテラス食堂の照明設備の消費電力	kW	1.6
T_{BL3}	ベースラインのテラス食堂の照明設備の稼働時間	h/年	2,555

(2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

A.4.1 モニタリング計画（照明）

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
T_{PJ1}	プロジェクト実施後の厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の稼働時間	h/年	C	就業規則をもとに算定	対象期間で累積	3,285	就業規則参照	9時間×365日
T_{PJ2}	プロジェクト実施後の日常動作訓練室の照明設備の稼働時間	h/年	C	就業規則をもとに算定	対象期間で累積	730	就業規則参照	2時間×365日
T_{PJ3}	プロジェクト実施後のテラス食堂の照明設備の稼働時間	h/年	C	就業規則をもとに算定	対象期間で累積	2,555	就業規則参照	7時間×365日

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。

分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。

分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
R_{PJ1}	プロジェクト実施後の厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の消費電力	kW	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ地を使用	プロジェクト開始時	5.9	照明設備の消費電力と稼働時間表参照	日立、東芝 三菱、コイズミ照明 Panasonic
R_{PJ2}	プロジェクト実施後の日常動作訓練室の照明設備の消費電力	kW	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ地を使用	プロジェクト開始時	0.5	照明設備の消費電力と稼働時間表参照	日立、東芝 三菱、コイズミ照明 Panasonic

R_{PJ3}	プロジェクト実施後のテラス食堂の照明設備の消費電力	kW	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ地を使用	プロジェクト開始時	0.6	照明設備の消費電力と稼働時間表参照	日立、東芝 三菱、コイズミ照明 Panasonic
R_{BL1}	ベースラインの厨房、事務室、食堂、機能回復訓練室、寮母室、及び廊下の照明設備の消費電力	kW	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ地を使用	プロジェクト開始時	12.7	照明設備の消費電力と稼働時間表参照	日立、東芝 三菱、コイズミ照明 Panasonic
R_{BL2}	ベースラインの日常動作訓練室の照明設備の消費電力	kW	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ地を使用	プロジェクト開始時	1.1	照明設備の消費電力と稼働時間表参照	日立、東芝 三菱、コイズミ照明 Panasonic
R_{BL3}	ベースラインのテラス食堂の照明設備の消費電力	kW	II	メーカーの仕様書に記載されたカタログ地を使用	プロジェクト開始時	1.6	照明設備の消費電力と稼働時間表参照	日立、東芝 三菱、コイズミ照明 Panasonic
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (0 ≤ t < 1年)	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	移行限界電源方式
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (1 ≤ t < 2.5年)	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	移行限界電源方式
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO ₂ 排出係数 (2.5年 ≤ t)	tCO ₂ /kWh	III	デフォルト値を利用	検証申請時に最新のものを使用	0.000570	モニタリング・算定規定Ver2.1参照	移行限界電源方式

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれかの方法を選択すること。
 分類Ⅰ（実測）を用いる場合には、A. 4. 4において実測方法の説明を行うこと。
 分類Ⅱ（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明（照明）

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

（1）計量器の概要

①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

（2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--

A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1 (1) においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	プロジェクト実施後の照明設備の稼働時間
<p>(推定・概算方法)</p> <p>添付資料:高滝神明の里 就業規則</p> <p>第4章 勤務時間、休憩及び休日 欄より</p> <p>保守的な値として、日勤 始業・終業時刻を選択</p> <p>保守的な値として、点灯場所については、共用部としています。</p> <p>厨房(1階)、事務所(1階)、機能回復訓練室(1階)、事務所【デイ】(1階)</p> <p>寮母室(1階)、廊下(1階)、食堂(2階)、寮母室(2階)、廊下(2階)</p> <p>上記場所については就業規則 日勤 始業・終業時刻は点灯しています。</p> <p>日常動作訓練室(1階)については、就業時間内にて、デイサービスにて</p> <p>催し物や入浴等の使用時(14時~16時半)に点灯しているため、</p> <p>保守的に2時間点灯としています。</p> <p>テラス食堂(1階)については、デイサービス利用者の来所する9時~16時に利用するため、</p> <p>7時間としています。</p>	

A. 4. 4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4. 1において分類 I に該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	